

A-99 数種の非必須アミノ酸の抗脂肪肝性に関する研究
奈良女大家政 ○池田順子 堀川蘭子 浜口陽一

目的 ある種のアミノ酸，特に必須アミノ酸が食事性脂肪肝の抑制や減少に効果的に作用する事は古くから知られている。しかし，非必須アミノ酸の脂肪肝に対する効果については，あまり知られていない。今回は，グルタミン酸，アスパラギン酸，グリシン，セリンの効果調べたのでここに報告する。

方法 初体重60g前後のウィスター系雄白ネズミを用い，脂肪肝を生じさせる基本飼料として，8%卵アルブミン食を用い，これに種々のアミノ酸などを加えた試験飼料を13日間摂取させ，その間，毎日体重を測定して成長を観察し，一夜絶食させた後14日目に開腹し，脱血後，肝臓を摘出した。肝臓を凍結乾燥後，エーテル抽出し肝脂量を測定した。基本飼料への添加物として，①グルタミン酸，アスパラギン酸，グリシン，セリンをそれぞれ各種割合に飼料に混合した。②比較のため，抗脂肪肝因子と考えられているコリン，スレオニンをそれぞれ投与した。

結果 ①いずれの非必須アミノ酸添加群においても，成長にほとんど差は見られず肝脂量に関しては，グリシンとセリンが，グルタミン酸とアスパラギン酸に比べて，効果的に作用する事が認められた。

②スレオニン添加群では，グリシンやセリンの約1/10量の添加で同じ効果を示したがそれ以上，割合を多くしても肝脂量を減少させる効果はあまり見られなかった。0.15%コリン添加群では，肝脂量の減少に効果が見られず，0.5~1%の添加群で効果が認められた。